

「紙芝居 はだしのゲン」を使った授業実践

全群馬教職員組合 田中光則



信澤さんの実践を聞いたことで思い出した、以前自分が実践した紙芝居の授業について紹介します。この実践を思いついたきっかけは、自分の子どもが「紙芝居が大好き」だったことです。同じ話を何度もせがまれ、そして毎回喜んで見ている娘を見て、「中学生でも紙芝居が好きなんじゃないかな？」と思い、地元（邑楽町）の図書館に足を運びました。

すると、紙芝居になった『はだしのゲン』があるではないですか！ 自分のクラスにも、いつもマンガは置いていました。しかし好きな子は何度も読みますが、一度も読まない子もいます。授業の中で紙芝居を読み聞かせれば、すべての生徒に知ってもらえます。

中学生でも紙芝居は大好きです。おそらく「先生が自分たちのために読んでくれている」ことが嬉しいのだと思います。子どもたちの集中度も、嬉しそうな表情も、ビデオを見るときとはまったく違います。「授業は、うまい人の動画を見せればいい」などという主張が、いかに間違っているかが分かります。授業とは、本当の教育とは、先生と子どもたちとのコミュニケーションの中で創っていくものです。

私の実践はただ読んだだけ（全5巻）で時間が終わり、その後の感想交流などはしていませんが、やってよかったと思っています。『前橋くうしゅう わたしの八月五日』は全群教に3部ありますので、授業で使う方に貸し出します。ぜひ、ご活用ください。



←「はだしのゲン」 参考動画 「前橋くうしゅう」→

